

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(/ /)
授業科目名：英語コミュニケーションⅡ 英語表記：English CommunicationⅡ ナンバリング：1013		単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：後藤範子 担当形態：単独
科目／系 列		／	
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／	
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 簡素な英語表現で簡単な会話ができる程度の会話力を身につけることができる。 2. 就職先園で必要となる基本的英会話を習得し、子どもや保護者と簡易な会話ができる。 3. 誰とでも恐れずに、偏見なく、コミュニケーションする態度を身につけることができる。			
【授業の概要】 授業は主に、演習形式で行う。実践的な英語表現を、学生の主体的活動を通して身に着ける。ペアワーク、グループワーク、ICTの活用などを駆使し、様々な活動を行うことによって、英語の基礎基本を身に着ける。同時に、保育者として必要な他者理解の姿勢を身に着ける。扱うテーマは、園での生活、歌、文化など。さらに、構内施設設立の「思い」を英語によって調査し発表することにより、英語力向上、及び学習のモチベーションを向上させ、教育者としてのマインド育成に寄与する。また英語絵本の読み聞かせを通して、実践的な表現力や即戦力を培う。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】			
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。			
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。			○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			○
【思考・判断・表現】			
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。			○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。			
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			○
【関心・意欲・態度】			
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。			
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。			○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。			○
【授業計画】 第1回：オリエンテーション・会話で使う基本表現 第2回：埼玉純真短期大学の「思い」を理解しよう 調査準備 第3回：埼玉純真短期大学の「思い」を理解しよう 発表準備 第4回：埼玉純真短期大学の「思い」を理解しよう 発表準備 第5回：埼玉純真短期大学の「思い」を理解しよう 発表 第6回：園の遊具や文具を覚えよう 第7回：初対面の挨拶、保育所・幼稚園の1年間の行事 第8回：保育所・幼稚園で使う日常表現 第9回：保育所・幼稚園で使う日常表現 第10回：映画から他者理解を学ぶ 第11回：映画から他者理解を学ぶ 第12回：クリスマスなどの文化に触れ、その中の英語を学ぶ 第13回：英語の絵本の読み聞かせの応用		【授業時間外の学習】 (授業時間外学習 1時間以上) ・予習では、授業内言語活動に備えて、個人およびグループでの練習や準備が必要である。 ・英文は耳や口や目や指を使って、覚えるまで反復する。 Practice makes perfect. (ことわざ「習うより慣れろ」) ・実践的な語学の習得を積極的に意識し、自主的に、校外でのボランティアなど、授業での学びの応用実践にチャレンジする。	

第14回：英語絵本の読み聞かせの応用 第15回：まとめと復習・保育の1日を演じてみよう 定期試験：筆記試験	
【授業の方法】 授業は主に、演習の形で行われる。また、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、カードゲーム、映像などのICTを活用しながら、様々な活動を通して、英語の基礎・基本を、実践に即した形で身に着ける。そのため、授業への積極的な取り組み姿勢や、自主的な事前・事後活動、および、反復練習が必要である。フィードバックテスト、パフォーマンステストを適宜行う。	
【テキスト】 必要に応じて適宜プリントを配布する。	
【参考書・参考資料等】 適宜指示する。	
【学生に対する評価】 小テストの成績(30%)、定期試験の成績(50%)、授業参画度(20%)を総合的に判断して評価。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 英語などの習得には日々の努力が重要である。授業は毎回出席し、積極的に言語活動を行い、身に着くまで繰り返す。他者と協働する授業では、他者を尊重しつつ、自分の意見もしっかりと言える態度が必要である。そして、卒業後、保育者として公平・公正な態度で、子供の成長に携わる資質を磨くことを、常に意識する。	
実務経験の有無：有	実務経験：元高等学校外国語科教諭
【実務経験を生かした教育内容】 外国語科教諭の経験を活かして、学生の実態に合わせた分かりやすい指導で、英語力の向上を図ると同時に、教育者として必要なマインドを身に着けることができる。	